

2017.8. 25 中国放送がテレビのニュースで本学の取り組みを報道

広島文化学園大学の研究ブランディング事業が8月25日に中国放送のテレビ「ニュース6」で報道されました。タイトルは「子どもや高齢者を支援 研究センターを大学に設置」。子ども子育て・教育福祉部門の研究拠点となる集いの場「来んさいカフェ」が、学芸学部のある広島 長束キャンパスに完成し、この日、地域の社会福祉協議会や民生委員・児童委員、区役所、市教委、学校などの方々を招いて施設を披露したのを機に取材したのです。

アナウンサーが「子どもの発達やお年寄りの健康について調べ、専門的な支援をするための HBG 対人援助研究センターが広島市の大学に設置されました」「広島文化学園大学長束キャンパスに設置された HBG 対人援助研究センター 来んさいカフェ:広島です。ここで子どもの発達や高齢者の健康について、心理学や生理学などの観点から専門的に調べていきます」と紹介しました。

長束キャンパス5号館の1階に整備した「HBG 対人援助研究センター」(約220㎡)を「来んさいカフェ」に充て、体の脂肪、水分量、筋肉量などの体組成計、連続血圧計、超音波骨密度計などによる検査室や、発達障害のある子どもの教育や認知症の緩和に効果があるとされる多感覚刺激空間「スヌーズレン」の実践室などがあります。

記者が「この部屋はスヌーズレンと呼ばれる癒しの空間です。電気を消しますと、ご覧のようにきれいな光で照らされて、音楽も流れています。こうしたウオーターベッドに寝そべってくつろぐことができます」とリポート。検査室で骨密度を測定している映像も放送され、「光、音、触覚によるリラックス効果が子どもの心や体にどのような影響を与えるのか測定したり、骨密度などを測って高齢者の健康についてアドバイスしたりします」と研究内容や取り組みを説明しました。

田中宏二学長はインタビューに対し、「地域の人に気軽に来てもらい、検査データを共有して健康や生活の質の改善を一緒に考えていきたい」と語りました。

× × ×

スヌーズレン実践室の備品ピックアップ

スヌーズレン実践室の備品の一部



バブルチューブ(真ん中)・光ファイバー



スーパースナッププロジェクタ



ウオーターベッド



スターライトクラウド

×

×

×

本学が進めている研究の名称は「地域共生のための対人援助システムの構築と効果に関する検証」。看護師、保健師、教師、保育士、音楽療法士、社会福祉士など「対人援助」の専門職養成が特色である大学として 5 年間かけて取り組み、「対人援助プログラム」と「地域支援サポーター養成プログラム」の開発と検証を行い、この研究が地域の活性化に結び付くことを実証します。

支援を必要とする子ども、障害児・者、高齢・認知症者が健康に暮らす共生社会の実現のために、HBG 対人援助研究センターを核として「来んさいカフェ」を提供します。カフェの名前に付けた「来んさい」は、「来てね」「立ち寄ってね」という意味の広島の方言です。

子ども子育て・教育福祉部門、看護・医療福祉部門、スポーツ・健康福祉部門の 3 部門にそれぞれ、さまざまな形態で「来んさいカフェ」を設け、研究を深めます。

この研究は、文部科学省の 2016 年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定されました。本学が申請したタイプA【社会展開型】には全国の 129 大学が申請。選定されたのは 17 大学で、選定率 13%でした。

活動風景

